

エッフェル塔と詩人・芸術家たち

新型コロナウイルス・オミクロン株の感染者が急増し、大阪府下も一両日中に「まん延防止措置」が発出され施行されますが、憧れのフランス・パリの象徴＝エッフェル塔と詩人・芸術家たち。和田先生の解りやすいご説明でエッフェル塔の魅力とそれに関わった詩人・芸術家たちについて興味深く学ぶことが出来ました！



1. エッフェル塔の歴史

- ・鉄の300メートルの塔
- ・1889年パリ万博の為に建てられたモニュメント
(フランス革命100周年後)
- ・万博会場 シャン・ド・マルスに建設
- ・鉄橋の建設会社：エッフェル社による建設

2. エッフェル塔の特色

- ・鉄製の塔：鉄の文化・・・近代の象徴
→石の文化への挑戦
- ・高さ・・・300メートル
- ・視線→見られる・・・大都市パリを高めより眺める

- ・上昇感・・・→エレベーター：塔の本質
- ・象徴性：科学・進歩の象徴/ パリの象徴（60年以降の国際観光の興隆）
- ・コミュニケーション（電波塔：電話・ラジオ）
- ・イメージの流布（ポスター・絵葉書・写真・ミニチュア模型等）

3. エッフェル塔と芸術家

- ◆1887年「ル・タン」紙：芸術家たちのエッフェル塔に反対する抗議文
(300名の署名)

『エッフェル塔に反対する芸術家たち』

モーパッサン、グレー、ガルニエ、ルコント・ド・リール、ヴェルレーヌ等々

※ 印象派画家の署名がない→モダニスト（新しいもの「今」を描く

◆ エッフェル塔と絵画

- ・スーラ「エッフェル塔」
- ・アンリ・ルソー「私自身 肖像=風景」
- ・アンリ・リヴィエール「エッフェル塔三十六景」



◆ ジャン・コクトー戯曲『エッフェル塔と花嫁花婿』

(ジャン・コクトー→エッフェル塔と同年生まれ)

- ・スウェーデン・バレエ団とフランス6人組の前衛的なバレエ音楽
- ・1890年台のエッフェル塔が舞台。
- ・電報・蓄音機・写真機などの登場人物
(1889年、トーマス・エジソンが発明した蓄音機をエッフェルに献呈)

4. アポリネールの詩集『アルコール』(1913年刊行)

- ・Guillaume Apollinaire(1880-1918)
- ・1913年:「奇跡の年」

※アポリネール『アルコール』、ブルースト『失われた時を求めて』第一篇『スワン家の方へ』、アラン=フルニエ『グラン・モーヌ』

◆ 『アルコール』冒頭の詩句

- ・「地帯」《Zone》・・・「場末、貧民街」という意味

◆ 「ミラボー橋」《Le Pont Mirabeau》

① 「ミラボー橋」のテーマ

- ・恋愛=セーヌ川→無常
- ・女流作家マリー・ローランサンとの恋とその終焉

② 現代性

- ・鉄の塔(1889)と鉄の橋(1896)

③ 前衛性と大衆性

- ・句読点の排除
- ・シンプルな表現とリフレイン

④ 詩の視覚性

- ・橋の形の模倣



25. グルネル橋
27. パッシー高架橋

『カリグラム』(1918)

※詩人の視点

ミラボー橋からエッフェル塔を望む！



パリの中心部を縦断して悠々と流れるセーヌ川。その上を約三十数本の橋が架かっています。数年前、セーヌ川の遊覧船＝バトームッシュにエッフェル塔が目の前の「イエナ橋」のたもとから乗船しましたが、ミラボー橋はもっと西側に架かっている橋で遊覧船のコースではないそうです。次回の旅行ではギョーム・アポリネールの気分でミラボー橋からセーヌ川の流れとエッフェル塔を眺めてみたいです。

記事：桐澤 久子